言葉の粒

村上　文緒

遠くの街で暮らすあなたに
会いに行く

辞書も翻訳機も要らない会話は
それはそれは心地良くて
温和な空気の中で言葉が弾ける
その粒を小瓶に密閉して
旅の土産として大切に持ち帰る
生きる事に疲れたら

小瓶の中の美しい粒を眺め
一つ取り出し口に含む
私が暮らす街にも
あなたの言葉の粒が輝いて
脆い絆社会の心と心を繋いでいくよ

お誘い

村上　文緒

開きっぱなしの蛇口から
浪費された言葉で
マス目を汚すくらいなら
罪を重ね続ける口を噤み
真っさらの原稿用紙の布団で
眠りに就く方が良い

それでも
空白のマス目の上で
沈黙のシーツの安らぎに包まれると
罪人の心の奥に
言葉の花びらが舞う

縁（えにし）

村上　文緒

糸と糸
繋がりたいのに、絡み合うだけ
無理矢理、結びつけようとして
結び目が千切れた

それでも
繋がる方法は氾濫し
手を伸ばせば、すぐそこに別の糸
絡み合って、また千切れた

千切れた糸の残骸は哀絶の色
簡単過ぎて
本当は、そこに何もなくて
寂しさが、外へ向かえば向かう程
サ　ビ　シ　イ　ネ

過ちを繰り返しながらも
きっと
僕らは気付くだろう
寂しさの正体に

さあ
勇気を振り絞り、孤独の海へ
言葉の櫂を手に、漕ぎ出そう

じっくりと
寂しさに浮かんでいたら
私と貴方の間を行き交う
言葉の波は光を帯び
二人の緒(いとぐち)を照らす

糸と糸
美しい蝶結び